

- 網羅的ゲノム・エピゲノム解析による肝移植、肝切除後の肝癌転移再発予測

研究の意義・目的

肝切除、肝移植で摘出された肝臓がん検体を用い、肝臓がんの転移と関連する遺伝子の変化を解析する研究です。この研究により、肝臓がんで転移するリスクの高いグループの絞り込み、治療成績の向上が期待できます。

研究方法

近畿大学医学部附属病院、および共同研究機関にて肝臓がんの診断や手術を受けられた方の摘出組織を用いた探索的研究です。がん組織の遺伝子の変化と術後の再発との関連を検討します。年齢、性別、腫瘍の広がり、腫瘍組織、再発や生存についての情報を使用させていただきます。

研究期間

近畿大学遺伝子倫理委員会承認後～2024年3月31日

研究機関名

近畿大学医学部内科学教室(消化器内科部門)、外科学教室および京都大学医学部肝胆膵・移植外科との共同研究です。

個人情報の取り扱いについて

お名前、生年月日、住所など個人情報に関わるデータは一切使用致しません。

この研究は近畿大学倫理委員会、共同研究機関の倫理委員会の審査・承認を得ています。

説明を希望される方は下記にご連絡下さい。

本研究に試料を提供したくない場合はお申し出下さい。それにより、今後の診療等に不利益が生じることはありません。

<研究責任者>

近畿大学医学部内科学教室・消化器内科部門

西田 直生志

TEL: 072-366-0221 (3525)